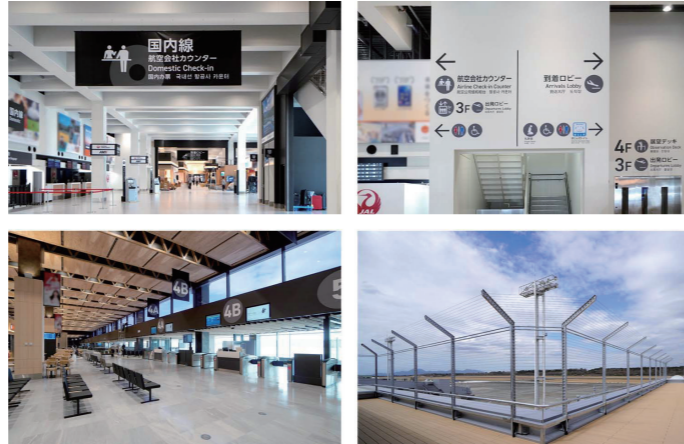


熊本空港（阿蘇くまもと空港）



外観

熊本城の黒漆、漆喰をモチーフにした陰影のある外観。ふんだんに県産の木材を使用し、熊本城の石垣をイメージさせる内装など『熊本地震からの創造的復興のシンボル』にふさわしい新旅客ターミナルビルが完成した。



内観・展望デッキ

空港内の案内サインは、国内線はブラック、国際線はホワイトで統一。また出発保安検査場通過後にショップ&レストランを設け、熊本のグルメやお土産選びを出発間際まで楽しんでもらえるよう工夫している。



1F
エアラインカウンター前
トイレ入口

「水と森の都 熊本」をコンセプトに、トイレ入口は「水の波紋」をイメージ。1Fトイレの内装は、男性トイレが熊本城の外観、女性トイレは熊本城の内装をコンセプトにデザインされている。



1F
エアラインカウンター前
男性トイレ 入口

入口には、ひと目でわかるよう色分けされた、大きなピクトサイン。また触知図も掲示し、トイレ内の設備を視覚障がい者が確認できるようにしている。



1F
エアラインカウンター前
男性トイレ 洗面コーナー

2段のカウンターでドライエアを設け、荷物の置き場所に配慮したツインデッキカウンターを採用。周囲への水はねも抑制できる。また手洗い後の水垂れを抑えるため、洗面器の間にクリーンドライを設置している。



1F
エアラインカウンター前
男性トイレ
小便器コーナー

小便器は、床の清掃性や節水性に優れた壁掛型の自動洗浄小便器、足元には尿の飛散によるにおいや汚れを軽減するハイドロセラフロアPUを採用。さらに、荷物配慮として小便器の間にフックを設置している。



1F
エアラインカウンター前
男性トイレ
大便器コーナー

大便器ブースの扉は、スーツケースのまま入りやすいように折戸を採用。また、十分な広さを確保している。



1F
エアラインカウンター前
女性トイレ 洗面コーナー

自動水栓と自動水石けん供給栓「オートソープディスペンサー」、クリーンドライを設置した洗面コーナー。個別鏡にすることで隣人の視線に配慮している。対面はスタイリングコーナー。



1F
エアラインカウンター前
女性トイレ
スタイリングコーナー

スタイリングコーナーには個別鏡を設置し、隣人の映り込みがないように配慮。また、小さなお子様連れに配慮して、大便器コーナーの一角に幼児用小便器を1ヶ所設置している。



1F
エアラインカウンター前
女性トイレ
大便器ブース

バリアフリートイレの利用集中を避けるため、オストメイト用汚物流しやベビージェアを備える大便器ブースも設置されている。



1F
エアラインカウンター前
バリアフリートイレ

使いやすさと統一感を実現したフラットカウンター・バリアフリートイレパックを採用。パブリック用折りたたみシートを設置し、大人や小さなお子様のおむつ替えも可能。訪日外国人に配慮し、4ヶ国語の音声案内も設置。



1F
エアラインカウンター前
授乳室

授乳室は男性も使用できるため、授乳室内の授乳スペースは鍵付きの個室としている。さらにおむつ替え後にすぐ手洗いできるよう洗面器も設置。緊急連絡できる内線電話も完備されるなど、細やかな配慮がなされている。

熊本空港（阿蘇くまもと空港）



3F滞在型ゲートラウンジ
男性トイレ 全体

「水と森と都 熊本」をコンセプトに、熊本城をテーマとした1Fトイレと意匠を変えて、こちらは「水」がモチーフの清澄な空間。洗面コーナーには、荷物の置き場所に配慮したツインデッキカウンターを採用している。



3F滞在型ゲートラウンジ
男性トイレ
小便器コーナー

小便器の上部壁は、「水」をイメージした印象的な内装。シンプルなデザインと節水機能を両立した壁掛型の自動洗浄小便器を設置。また、ユニバーサルデザイン配慮として、1ヶ所に小便器用手すりを取り付けている。



3F滞在型ゲートラウンジ
男性トイレ 大便器ブース

操作案内は、訪日外国人の利用を考慮し4ヶ国語で掲示。大便器は連続洗浄可能な壁掛大便器セット・フラッシュタンク式を、操作ボタンは押すたびに発電し乾電池の交換などが不要なエコリモコンを設置している。



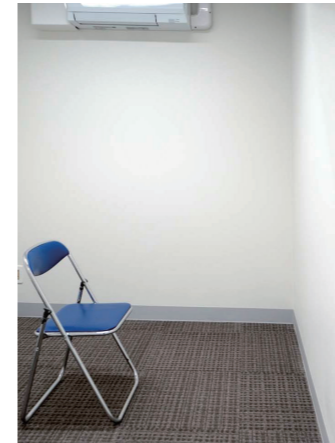
3F滞在型ゲートラウンジ
女性トイレ 全体

手洗い後の水垂れを抑えるため、洗面器の間にクリーンドライを設置。奥には、個別鏡を設けることで隣人の視線に配慮した、スタイリングコーナーを設けている。



3F滞在型ゲートラウンジ
女性トイレ
大便器コーナー

大便器ブースの扉は、スーツケースのまま入りやすいように折戸を採用。また、ブース内の設備がわかるようにピクトサインを各入口に表示し、目的のブースが探しやすく、混雑緩和につなげている。

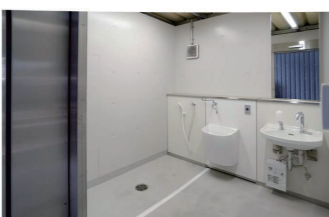


1F 祈祷室

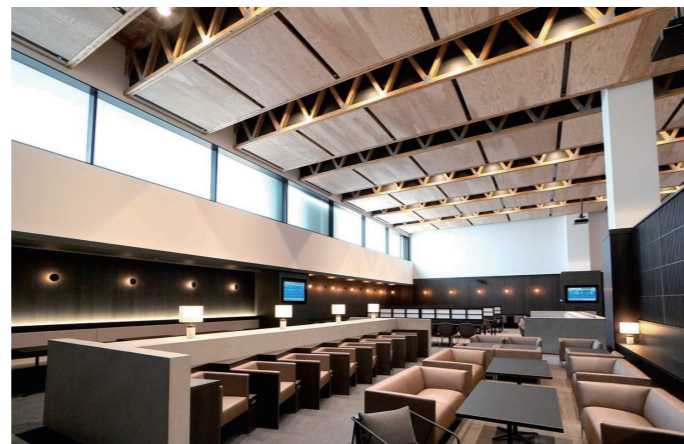
ムスリムへの配慮として、旧旅客ターミナルには用意されていなかった祈祷室を設置。男性・女性それぞれの祈祷室を用意し、礼拝の前に身体を清める洗い場も設置している。



1F ほじょ犬トイレ

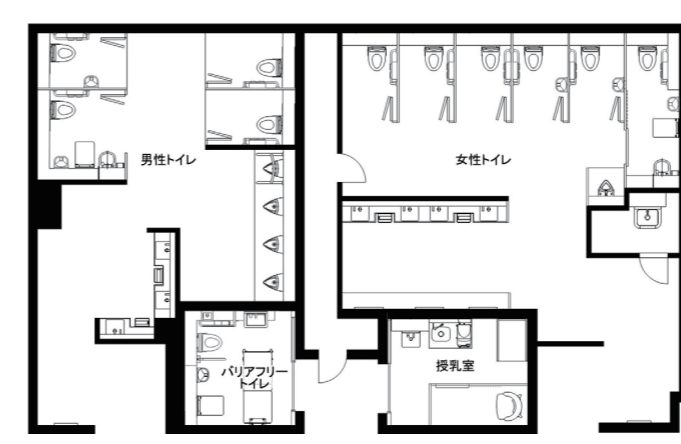


入口のモニターで案内所につながり、解錠される仕組みのほじょ犬トイレ。筆談が必要な方に対応できるようにテレビ電話も設置。洗面器やシャワー以外に、ほじょ犬の排せつ物を処理するための汚物流しも完備している。



3F滞在型ゲートラウンジ
ラウンジASO

厳選された無節の小国杉をふんだんに使用した木の天井など、高級感ある設えと、熊本城をモチーフにしたモダンな空間の有料ラウンジ。個室型ワークブースや会議室もあり、ビジネスにも対応可能となっている。



1F
エアラインカウンター前
トイレ図面

水まわりの特長

建物の特徴

熊本地震からの復興や空港コンセッション（公共施設等運営事業）方式の導入をきっかけに、国内線と国際線が一体となった「阿蘇くまもと空港」。2023（令和5）年3月に新旅客ターミナルビルがオープンした。外観は熊本城の黒漆、漆喰をモチーフにした陰影のあるデザインが特徴。3F出発ロビーや搭乗待合エリアなどの天井には、熊本・九州産の美しい無節の小国杉をふんだんに使用。さらに、通路や風除室の天井には、東京五輪選手村の木造施設「ビレッジプラザ」で使用された熊本県産のレガシー（遺産）材を活用し、SDGsに貢献している。世界と地域にひらかれた「九州セントラルゲートウェイ」として、熊本震災からの創造的復興のシンボル、随所に工夫された旅客ターミナルビルが完成した。

水まわりの特長

建設にあたり、熊本県UD設計アドバイザー制度を利用。設計段階から参加し、モックアップの作成やサインの現地確認など、第三者の視点から空港内のユニバーサルデザインを徹底追求した。旅客ターミナルビル各所に、男女トイレとバリアフリートイレを設置。大便器ブースは、スーツケースなどのまま利用する人を想定し十分な広さを確保し、扉は折れ戸を採用。またバリアフリートイレの利用集中を避けるため、男女トイレ内にオストメイトなどを設置した、ひろびろとした大便器ブースも完備し、機能分散を図っている。授乳室は男性の利用を考慮して、内部に鍵付きのスペースを設置し女性が安心して授乳できるように工夫。さらに「ほじょ犬トイレ」「カムダウンスペース」「祈祷室」なども新設されている。

建築概要

名称	熊本空港（阿蘇くまもと空港）
所在地	熊本県上益城郡益城町小谷1802-2
施主	熊本国際空港株式会社
設計	日建設計・梓設計設計監理共同企業体
施工	大成建設株式会社
竣工年月	2023年1月
敷地面積	217,057.91㎡
建築面積	17,692.35㎡
延床面積	37,842.48㎡
構造・階数	鉄骨造、一部木造・地上4階

おもなTOTO使用機器

- 壁掛大便器セット・フラッシュタンク式:UAXC3C系
- ウォシュレット アプリコットP(擬音装置「音姫」付きエコリモコン):TCF5830系
- 棚付二連紙巻器:YH701
- 自動洗浄小便器:UFS900系
- ハイドロセラフロアPU:AB690系
- ツインデッキカウンター（ポウルー一体タイプ）:MKWE
- 壁付自動水栓:TENA12*A系
- フラットカウンター・バリアフリートイレパック:XPDAARS6122WWW
- コンパクトオストメイトパック:UAS81RDB1NW
- パブリック用折りたたみシート:EWC500RS
- 幼児用小便器:U310GY
- ベビーチェア:YKA15S
- フィッティングボード:YKA41R
- パブリック用手すり:T112CL9、T112CU22